

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	中野区東中野 3-12-2
園名	東中野しらゆり保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

様々な遊びを楽しむ中で、体の様々な動きや姿勢を伴う遊びを繰り返し楽しむ。

<テーマの設定理由>

目の前にある素材、遊具、玩具などに手を伸ばした子どもたちから発せられる問いに対し、子どもたちが主体的に環境に関わり、遊びへの興味・関心を広げ、探求を繰り返しながら「できた」という自己有能感及び喜びを獲得していく。

2. 活動スケジュール

活動内容	時間/回	人数/回
0歳児		
動物の動きから生命の進化を体感	20分/週1~2回	6人
1歳児		
動物の動きから生命の進化を体感	30分/週1~2回	12人
2歳児		
ムーブメント教育・療育	30分/週1回	12人
3・4歳児		
ムーブメント教育・療育	45分/週1回	7人

指導者が入って行うムーブメント教育・療法の中で、巧技台を使用し、バランス感覚を養う遊びを一人ひとりが興味・関心に応じて探求していく。また、未満児はプロジェクターを利用し、スクリーンに映し出される動物の映像を観察し、動きを模倣する。幼児は創作ダンスを行い、自らの踊りを撮影。映像を見て振り返る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・巧技台やフラフープ、スペースマットを使用してサーキットを組み活動する。
- ・プロジェクターを使用し、スクリーンに映し出される動物映像からヒントを得て、一人ひとり自由に体を動かしていく
- ・自由に曲を選択し、創作ダンスを行う。
- ・撮影した子どものダンスを視聴し、振付を確認しながらダンスパフォーマンスを繰り返し広げる。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・プロジェクターからスクリーンに映し出される動物の映像を見て、スクリーンの前で静止した子ども、耳を傾け、動物の鳴き声を真似するなど、リズム運動やムーブメントの中で行っている動物の動きから発展し、映像から映し出される動きや泣き声に反応し自由表現を楽しむ。
- ・ダンス動画を視聴しながら、主体的に全身でパフォーマンスを繰り返し広げると共に、ビデオカメラやスマートフォンで自らのダンスを動画や写真で確認することで、自分自身を客観的に判断する。さらに友達の動きに触発され、少しずつ自己を発揮できるようになる子どもが増える。
- ・巧技台を導入するにあたり、使用方法上の危険度などから子どもたちと考える、幼児クラスは、サーキットの流れを企画する。巧技台のみならず、他のムーブメント用具と組み合わせサーキットを作る。また、自分たちで考えたサーキットにおいて、身体をどのように使うことが、自らの運動能力に適しているのかを子どもたちは一人ひとり、探求していく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・「未満児」

身体を動かすことが大好きな子どもたちは、スクリーンに映し出された大画面の映像に大興奮。映し出された動物がどこにいるのかを探しているのか、スクリーンの下や後ろを覗き込んでいた。また、ダンスでは手足や体全体を使い、リズムに合わせて主体的に楽しむ姿があった。映像が終了すると、次々と子どもたちからリクエストが飛び交った。

・「幼児」

数名の子どもがスクリーン前に位置し、大きく体を動かしダンスを踊っていた。その姿に影響され、他の活動ではなかなか積極的に前に行かない子どもが、自然に体を動かしリズムを取り始める姿がある。また、自分自身のパフォーマンスを見ながらダンスを深めていく様子に保育者も次第に動きが大きくなり、共に時間を共有し楽しんだ。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【ムーブメント指導者より】

・ミニカラーコーン・フラフープ・ビーンズバックなどを活用して音への反応や手指操作、体の動かし方の習得をしつつ、一人ひとりの今日に・関心を受け止めて行けるようにしているが、回を重ねるごとに子どもたちが自ら考え行動すること、話を聴くなど集中できる時間が伸びていることを感じる。

【園の保育士より】

・子どもたちが、固定遊具やムーブメント用具を遊びの中に取り入れる時、大人の予想を超えた遊びが生まれる。保育士が設定した環境の中にあっても、子どもたちの動きがそれを上回っていく時に、保育士は大きな喜びを得る。その喜びを支えるものが、安心安全な環境と保育士としての人的環境の部分である。子どもたちが遊びの中で、自らを超える場面がたくさん提供できるように、一人ひとりの子どもを観察していく大切さを保育士として痛感する。